

八代のよかところば 大会参加者に伝えたい

全国シニアソフトボール熊本県八代大会実行委員長

田中 忠男 さん (花園町)



「よっしゃ」「こっちこい」。グラウンドに響き渡る声の主は、今年で80歳を迎える現役ソフトボーラーの田中忠男さんだ。ソフトボール歴50年以上のベテラン選手である。

5月17日から3日間、球磨川河川緑地で第32回全国シニアソフトボール熊本県八代大会が開催され、全国各地から51チーム約800人の選手たちが八代に集結した。

田中さんは、八代シニアの選手として出場するとともに、この大会の実行委員長を務めた。「八代の魅力を全国各地からやってきた人知ってもらい、『来て良かったな』と思ってほしいとの思いから実行委員長を務めた」と語る。

球磨川河川緑地にソフトボール専用球場ができたのを機に、八代での全国大会開催が決定。県シニアソフトボール連盟に加盟している八代の各チームから実行委員45人を召集し、2年かけて準備を進めた。「大会運営は大変だった」と語る田中さん。参加者からは、八代亜紀さんやくまモンに会いたいという要望もあった。他にも、試合の環境整備などの問題もあった。時間や予算などの諸事情

により、期待に応えることができないところもあったが、実行委員のみなんで関係機関に掛け合うなど、万全の体勢を整えた。また、大会参加者もいろいろな面で快く協力してくれた。「運営を通して人とのつながりが生まれ、お金には変えられない財産を手に入れた」と田中さんは満面の笑みで喜びを語った。

少年時代は野球をしていた田中さん。大人になってからソフトボールを始めた。そして、子どもに恵まれ、息子と一緒に親子ソフトボール大会に参加したことがきっかけで、本格的にソフトボールに打ち込むようになったと言う。

当時の八代はソフトボールが流行っており、レベルも高かった。全国大会より八代で勝つ方が困難な程だった。長年トップレベルのソフトボール人生を歩んできたからこそ、ソフトボールや今大会にかけた熱い思いは誰にも負けない。

「80歳まで運動を続けられることは嬉しい。引くタイミングを失ったが、これからも現役で、ソフトボール大会などを通して八代に貢献していきたい」と抱負を語った。



▲八代シニアの選手たち (前列左から2番目が田中さん)



▲3塁手として軽快なプレー



2014.JUNE

No.114

- 3 平成26年度 予算
八代市のお金の使いみち
- 7 臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金、児童手当・特例給付現況届
- 8 歯と口は健康のカギ
- 9 ^{いのち}生命を守るための備え
- 10 自主文化事業のご案内
- 12 住民自治によるまちづくり
- 13 平成26年度 八代市職員募集 <前期日程>
- 14 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 24 広告
- 28 まちのわだい
八代少年少女合唱団創立40周年記念定期演奏会
第25回 八代ちびっ子カーニバル
八代亜紀絵画コンクール表彰式
九州国際スリーデーマーチ
100歳 おめでとうございます
八代亜紀さんの絵画を架け替え
ロアツ熊本「火の国もりあげタイ！」
赤星公園ぼたん祭り
地震発生を想定した津波避難訓練
厚生会館初のハワイエコンサート
「スマホの中に商店街」事業スタート
プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦
他2件
- 31 伝言板
- 32 市民プールオープン